専大スポーツ
No.451
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/

200メートルタイムトライアル

高萩紗らが日本新記録

OG高萩嬉らさんも5000メートル日本新

記録達成を喜ぶ高萩紗ら（右）と高萩嬉らさん

全日本トラックレーススピード選手権大会＝4月13～14日、江戸川区・水辺のスポーツガーデン

ローラースケートのリンク競技5種目が行われた。日本代表としても活躍する高萩紗ら（文4・光丘高）が、200メートルタイムトライアルレース、500メートル＋Dで優勝。200メートルでは21秒287で日本新記録を樹立した。

昨年度はロード競技の1万5000メートルエリミネーションで日本記録をマークした高萩。200メートルのレースについて「日本記録を更新することを目標に頑張っていたのでとてもうれしい」と話した。また、「短距離も長距離も積極的なレースをして、海外でのレースにつなげられるように努力していく」と意気込んだ。

また、姉で専大卒業生の高萩嬉らさん（令5文）が5000メートルポイントレースで8分46秒604の日本新記録で優勝した。2位の高萩紗らも8分51秒535で日本記録を上回るなど、ほとんどの女子種目で高萩姉妹が1、2位を独占。今後も2人がローラースケートのスピード競技を引っ張っていく。

（山口由結・文4）

準優勝　王座奪還ならず

優秀選手賞　介川アンソニー翔
敢闘賞　ジョベ・モハメド

得点源として活躍した介川

関東大学バスケットボール選手権大会＝4月13日～5月5日、渋谷区・代々木第二体育館ほか

2年ぶりの王座奪還を目指した専大だったが、決勝戦で前回王者の日体大に75－84で敗れ、準優勝で幕を閉じた。

ミスから相手に得点を許す苦しい展開が続いたが、主将の市場脩斗（文4・市立船橋高）が後半だけで16得点。試合でキャプテンシーを発揮したが、「前半からもっとやるべきだった。勝てた試合だと思うので悔しい」と後悔を口にした。

チームを鼓舞し続けた淺野ケニー（経済4・洛南高）は「相手の高さを気にしすぎた。相手に合わせるのではなく、自分たちのバスケをしていきたい。目標はインカレ（全日本大学選手権大会）優勝なので、そこにつながるプレーを追求したい」と話した。

個人賞では、4戦連続2桁得点など活躍した介川アンソニー翔（商2・開志国際高）が優秀選手賞、得点・リバウンドで貢献したジョベ・モハメド（商2・高知中央高）が敢闘賞を受賞した。

（髙野葵葉・文3＝写真も）

女子エペ・齋藤　今年初戦で準優勝

日本学生フェンシングカップ（個人戦）＝4月19～21日、世田谷区・駒沢公園屋内球技場

女子エペで齋藤華南（経済4・秋田商高）が準優勝に輝いた。

「試合をしっかり組み立てることを考えていた。ただ、頭を使いすぎて心が冷えてしまわないように『冷静に、心は熱く』ということを意識した」と大会を振り返った齋藤。

決勝ではライバルの稲山友梨選手（明大）と激突。序盤はしっかりと試合を組み立て、攻め合いが続いた。一進一退の展開となったが、2セット目で相手に主導権を握られ、11－15で敗れた。課題は残ったものの、「練習してきたことに挑戦し、それが成功もした。試合で得られる成功体験は練習よりも貴重だと思う」と話した。

女子エペでは、吉田ひなた（人間科学3・気仙沼高）との準々決勝を制した伊藤凛（人間科学4・安来高）がベスト4入りした。

（山口）

攻勢をかける齋藤（右）　撮影＝竹田一爽（文3）

専大スポーツ編集部公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow

期待のルーキーたち　3種目制す

男子Sを制した木塚　提供：Rallys

坂本（左）・中谷ペア　提供：Rallys

関東学生卓球新人選手権大会＝4月30日～5月1日、埼玉県・所沢市民体育館

新入生にとって大学最初の公式戦。シングルスでは男子の木塚陽斗（文1・明豊高）が優勝。ダブルスでは男子の坂本壮太（経済2・東山高）・中谷歩夢（人間科学1・浜松修学舎高）ペア、女子の首藤成美（文1・希望が丘高）・村松愛菜（文1・富田高）ペアがそろって優勝し、専大勢が3種目を制した。

優勝を喜ぶ首藤（右）と村松

木塚は「優勝できたことは自信になる。良いスタートを切れたと思う」と手応えを語った。

坂本・中谷ペアは勝因を「お互いの弱点を補い合えたことが大きい」（坂本）、「コミュニケーションをうまくとることができた」（中谷）と分析する。

首藤・村松ペアは、入学直後からペアを組んで練習を重ね、コンビネーションを磨いてきた。2人は「優勝できると思っていなかったのですごくうれしい」と口をそろえた。（河上明来海・文4、高橋奈月・文2）

F57kg級　松村が優勝

U20世界選手権の出場決める

左から石原、松村、向田

レスリング・JOCジュニアオリンピック・カップ＝4月27日、横浜市・横浜武道館

フリースタイル57kg級で松村祥太郎（経営2・日体大柏高）が頂点に立った。

「昨年は良い成績を残すことができなかったので、この大会は絶対に優勝すると決めていた」と松村。今大会の結果、U20世界選手権の出場権を獲得し「初めての海外での試合となるので、しっかりと練習を積んで結果を残したい」と意気込んだ。

同じく57kg級では向田旭登（経営3・花咲徳栄高）が3位入賞。61kg級でも石原弘幸（経営2・玉名工高）が3位となった。

（知地泰雅・文2）

巻き返しに期待

東都大学野球春季リーグ戦（2部）第1～4週＝4月10日～5月10日、神奈川県・等々力球場ほか

5月10日現在、専大は5勝3敗の勝ち点1で2位タイにつけている。

5月2日の国士大1回戦では、5番・松永知大（経済3・創成館高）の2点本塁打など打線が爆発。先発の肥沼竣（商4・加藤学園高）が7回無失点の快投を見せ、10－0で大勝と、チームの調子は上がっている。リーグは混戦状態で、専大は勝ち点2で首位の東農大との直接対決も残っており、ここからの巻き返しも十分に可能だ。

（小山明香・文3）

1部復帰ならず

関東大学バドミントン春季リーグ戦1・2部入れ替え戦＝5月11日、東京都・東女体大第1体育館

4勝1敗で2部を制した専大は、1部復帰を懸け日大との入れ替え戦に挑んだ。第1ダブルスの加藤環季（文4・金沢向陽高）・吉田陽萌（文2・金沢向陽高）ペアが粘り強さを見せて勝ち星をあげるも1－3で敗れ、1部復帰はかなわなかった。主将の加藤は「これが今のチームの実力。今回分かった課題を秋までに改善し、1部に復帰したい」と誓った。

（北原倖多・文3）